

松本 佳子

兵庫医療大学看護学部 助手

高齢者の介護予防のための備えに関する研究

本研究は、社会関係や活動の喪失に対する対処を、社会面における備えとし、その具体的な行動や社会面における備えの分布、関連要因、生活満足度と健康度とソーシャル・サポートとの関連、を明らかにすることを目的とした。

インタビュー調査は、60歳以上で、中山間部在住8名、都市部在住9名の協力を得た。質問紙調査は、2011年2月～3月、60歳以上80歳未満の者で、中山間部在住で老人クラブ会員50名、都市部在住で地域福祉ボランティアに従事する者30名を対象に、無記名自記式質問紙を配布回収した。質問紙調査の回収率は中山間部66.0%、都市部76.7%であった。

結果、社会面における備えの具体的な行動は、「好きなこと、熱中できること、得意だと思うこと」「近隣住民との関係」「家族関係」に分類された。社会面における備えは、「近所の人と親しく話す」「近所の人を手伝ったり、気を配る」は都市部に比べ、中山間部で高かったが、他の項目で地域による違いはみられなかった。社会面における備えは、中山間部において、学歴が高い者、経済的ゆとりが高い者、収入のある仕事がない者、身体機能が高い者が行う傾向にあった。都市部においてはどの要因とも関連が認められなかった。社会面における備えの具体的な行動と、それが人口規模の異なる地域によって、分布、関連する要因が異なることが明らかになった。今後は、年齢構成をそろえたサンプルで、社会面における備えの地域による違いをさらに検討する必要がある。